

新型コロナウイルス感染症まん延下における オンライン参加による仮想集合研修の 構築とその効果



三重県救急搬送・医療連携協議会 (三重県メディカルコントロール 協議会)

三重県救急搬送・医療連携協議会 メディカルコントロール専門部会委員¹⁾

三重県救急搬送・医療連携協議会 認定指導救命士²⁾

高森 豊²⁾ 山本直樹²⁾ 西尾雅樹²⁾ 伊藤元也²⁾

西井宏隆²⁾ 釜谷 康²⁾ 説田守道¹⁾

三重県における指導救命士の必要性

- 多くのプロトコルに関する伝達講習
- ブラッシュアップ(集合研修による再教育)
- 追加特定行為の認定講習の指導者



MC医師と共に指導側に立つ人材育成が必須

2012年から三重県で指導救命士養成を開始

現在87名の指導救命士が在籍

(2019年からは上級指導救命士を養成し、現在5名在籍)

MIELS* (三重県救急救命標準化教育統合コース) の開催

指導救命士自立への第1歩としてMIELSを開催

大目標：三重県の救命率・社会復帰率の向上



医療機関への実施基準やプロトコルの周知



医師等と救急隊員が同じ課題に取り組む
“楽しい” イベントを開催する



- ・ 三重県救急救命指導者セミナーの一環として予算化
- ・ 三重県内の医療・消防機関への趣旨説明
- ・ 企画運営を**指導救命士**が担当

コースのコンセプト立案から
指導救命士が中心となる

*Mie Integrated Emergency Life Support

MIELS開催の目的と学習効果を向上させる工夫



Mie Integrated Emergent Life Support Course

- 1 医療と消防の連携強化
- 2 標準化された救急医療の知識と技術の向上
- 3 指導救命士の指導者としての自立
- 4 コースから得れた知見を次の教育や救急活動への反映

重視したコンセプト

- ・ ガイドラインやプロトコルの遵守
- ・ 医療と消防の連携強化
- ・ 接遇（知識・技術・新設）

1 ブース長に指導救命士

- ・ 指導救命士が各ブースの企画・運営・管理
- ・ 指導医師は開催までブーススタッフを指導し、当日は受講者を指導

2 PDCAサイクルの構築が可能なブース運営

- ・ 本コースが次の教育や救急活動へ反映できるようなプラン作成をブース長の課題とする

3 双方向評価を採用

- ・ 受講者がプロトコルに忠実に活動したかを評価
- ・ 受講者も各ブースの運営状況の評価

オンライン参加による仮想集合研修



事務局（ホスト）

Googleフォームにて
設問に回答する。

司会
進行

オンライン

設問
回答

Zoom及びGoogleサービスを使用
しオンラインで進行する。

各会場

参加チーム



開催当日



全身観察 設問



傷病者Cについての設問です。

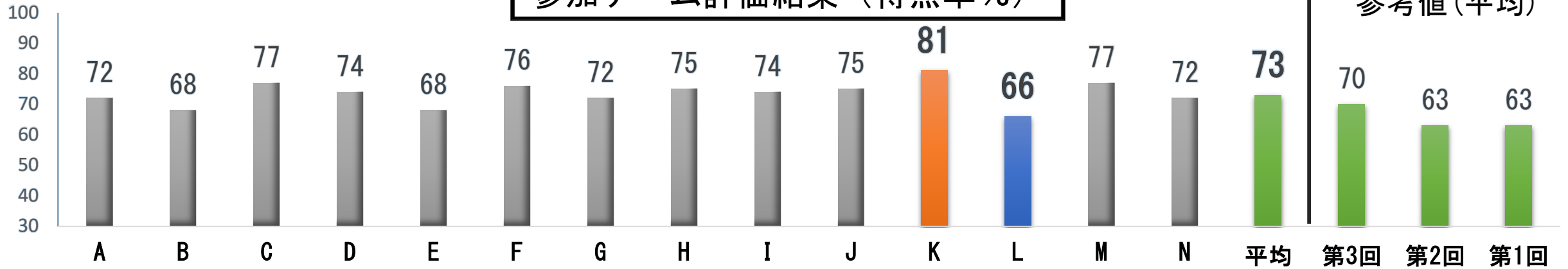
全身観察の結果から考えられる病態のうち、もっとも正しい組み合わせを選べ。

- ① 急性腰痛症、腹腔内出血、腎盂腎炎
- ② 脊椎圧迫骨折、脊髄腫瘍、アナフィラキシーショック
- ③ 頭部外傷、血気胸、尿路結石
- ④ 腰椎ヘルニア、反射性失神、骨盤骨折
- ⑤ 骨盤骨折、腹部大動脈瘤破裂、腎外傷



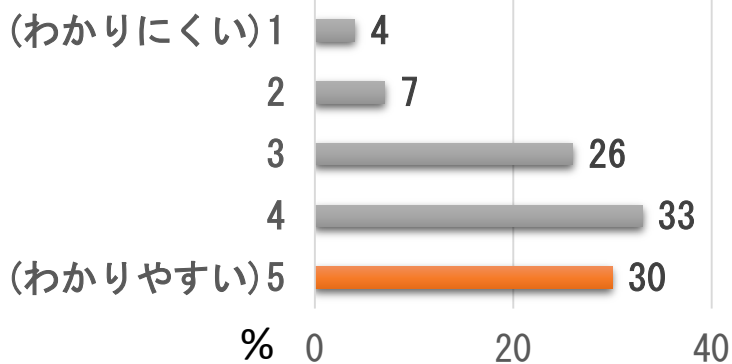
コース開催結果

参加チーム評価結果（得点率%）

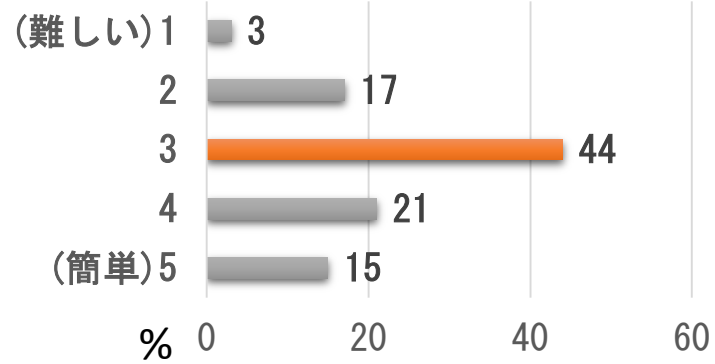


ブース評価結果（5段階評価）

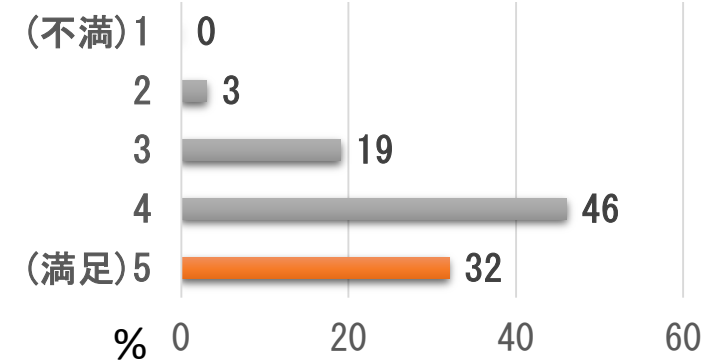
シナリオの映像について



設問について



コース満足度について



考察と結語

- ◆ 指導救命士の自立を目指し、医療機関と消防機関の連携を強化するため、指導救命士が中心となり三重県救急救命標準化教育統合コース(MIELS)を開発実施してきた。
- ◆ オンラインによる仮想集合研修は、会場の制約を受けずに多くのチームの参加が可能となる。
- ◆ 受講者からのコース評価は良好で、スタッフの達成感も大きかった。特に動画の評価は高く、今後の教育へ活用できる資源を残すことができた。
- ◆ 現場活動に即した評価項目に対し、受講者の達成度は平均73%であり、過去に比べ上昇しているがこれを是正する対策が必要であると考えます。
- ◆ 三重県救急救命標準化教育統合コース(MIELS) (WEB) の開発と実施は、三重県指導救命士の自立のために役に立つと考えられる。